

平成22年4月1日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2009

課題番号：19252003

研究課題名（和文）

中国共産党に関する政治社会学的実証研究

研究課題名（英文）

A Study on Societal Aspect of China's Communist Party

研究代表者

菱田 雅晴（HISHIDA MASAHARU）

法政大学・法学部・教授

研究者番号：00199001

研究成果の概要（和文）：

1978年末以来の中国の改革が“私利”を核とした社会システム全体の転型であることに呼応して、中国共産党自身にも“私化”傾向が著しく、組織としての私人性に加えての“私利性”は“領導核心作用”なるレトリックの正統性に深刻な影を落としている。

最終的には、この党組織は、内外の環境変化から危機的様相を強め、存続そのものが危殆に瀕しているかの如く見えるものの、これら変化を所与の好機として、この世界最大の政党にして最大規模の利害集団はその存在基盤を再鑄造し、新たな存在根拠を強固なものとしつつあるものとの暫定的結論を得た。

研究成果の概要（英文）：

Having identified the CPC as an “organization”, the CPC's existence, although seemingly in crisis during a period of reform and opening up, has been ultimately with the critical elements strengthened by the internal and external environmental changes. Taking those changes as a good opportunity, the largest political party in the world and at the same time the largest-scale interests organization, is being reinforced by the restructuring of its base of existence and then consolidating its new *raison d'être*.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2008年度	7,500,000	2,250,000	9,750,000
2009年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
総計	21,100,000	6,330,000	27,430,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：海外学術

キーワード：現代中国、中国共産党、政党、エリート、ガバナンス、党建、イデオロギー、中南海

1. 研究開始当初の背景

移行期中国にあって、市場化の浸透、分権化改革の進展にも関わらず、中国共産党は依然として、あらゆる側面において《万能の神》の座に依然君臨しているが、この中国共産党という中国政治の核に対するわれわれの智識は十全なものとはいえない状況にある。

他方、近年著しく国際的存在感を高めている現代中国の動向を精確に把握するという実践的要請に加えて、社会主義からの移行過程裡の中国の現実的様態から新たな政治社会発展理論を構築するという学術面的要請に基づき、中国共産党なる政治的存在をあらゆる側面から、従来の個別研究の枠を糾合し、

総合的に再検討することが喫緊の課題となっていた。

2. 研究の目的

本研究は、現代中国政治における最重要の核としての中国共産党を組上に載せ、この政治組織を政治社会学的な実証的分析手法により、権力構造、組織制度面の分析から、その社会的存在という側面に至るまで、総合的且つ実証的に把握し、中国共産党という政党組織、政治権力集団の“断面図”を描き出し、中国政治の原点を再検討することを目的とした。

3. 研究の方法

前項記載の目的を達成するため、本研究では、中国共産党に関する制度論的分析と政治社会学的手法に基づく党および党員に関する広範なアンケート調査を方法として採用した。

制度分析は、中国共産党のさまざまな制度規定の内容を対象とし、内部昇任、賞罰制度、幹部登用制度、各級党組織間の関係あるいは党費納入／管理制度、更には、党と行政機関との関係、すなわち“党政関係”等々の組織内規定、規則、ルールを対象として、「内部文件」、「国内発行」等と称される党内部の非公開文献を含めた広範な文献蒐集を行ない、書誌文献調査を主な手法とした。

後者では、中国共産党および党員に関するアンケート調査、意識調査を実施した。(1) 非党員大衆層、(2) 地方党員層、(3) 予備勢力層および(4) 党エリート層をそれぞれターゲットとして、党員の意識と行動および中国社会裡に存在する党／党員イメージを、中国側研究カウンターパートの協力の下、アンケート手法により調査した。併せて、各レベルの党関係者からのインテンシブなヒアリング調査によってこれを補完し、研究期間全体を通じて本邦内に設置した月例研究会『中南海研究会』で制度分析、アンケート調査の解析を進めた。

4. 研究成果

制度調査を核とする書誌的調査とアンケート手法による実証分析から構成された本研究から得られた知見としての主要成果は、概要、下記の通り。

－ 党をめぐる外部環境の変化（イデオロギーの失効、党細胞機能の弛緩、正統性疑義）により、従来この党が保持して来た磁力、磁場が急速に減衰している。この組織は、外部環境の不確実性と内部構造の弛緩から、今なお“領導核心作用”を保持しつつも、混沌／攪乱相をも裡に胚胎している。なぜなら、1978年末以来の改革が“私利”を核とした社会システム全体の転型であることに呼応して、党

自身も“私化”傾向が著しく、組織としての私人性に加えての“私利性”は畢竟“領導核心作用”なるレトリックの正統性に深刻な影を落とさざるを得ないからである。

－ 本研究では、この党組織が改革開放期にあって、果たして内外の環境変化から危機的様相を強め、存続そのものが危殆に瀕しているのか、それとも逆にそれら変化を所与の好機として、この世界最大の政党にして最大規模の利害集団がその存在基盤を再鑄造し、新たな存在根拠を強固なものとしつつあるのかを見極めることを最終的設問として掲げ、前者の立場を「黄昏（＝ダスク）ポジション」、後者の見方を「黎明（＝ドーン）ポジション」とそれぞれ名付け、両ポジションを検討したところ、本研究としての暫定的判断は黎明ポジションに寄り近いものとなった。

その背景要因は、党自身がこの変容＝“組織危機”に関して、一貫して積極的なアクターであったということ（加えて、予防的に、“異議申し立て者”＝反対勢力 opponent の伸張を封殺すべく、内部へと取り込み co-opt、抱き込む embrace しようとする予防的サバイバル戦略 preventive survival strategy の成功）、並びに潜在的な“異議申し立て者”＝反対勢力自身とて、明確に現体制の一部をなしており、決して外部から現体制に対抗する“チャレンジャー”ではないことが挙げられる。

とはいえ、政治変動は、経験則に従い、何らかの予兆を伴い、その累積の上に、予定調和的に発生するものではない。現代中国にも不可知要素は溢れており、現存の均衡が破綻する可能性は排除できない。変容は如何なる経済発展段階でも発生していることは銘記しておかねばならず、本研究をベースに第2期中南海研究会を継承発展させる必要性はまさしく茲にある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 35 件）

- (1) 菱田 雅晴「自律化社会のガバナンス」『中国 基層からのガバナンス』法政大学出版社／無／2010／pp. 1-24
- (2) 菱田 雅晴「終章：忍び寄る危機」『中国 基層からのガバナンス』法政大学出版社／無／2010／pp. 304-320
- (3) 毛里 和子「現代中国 60 年をどう見るか——パラダイム・シフトを考える」『中国研究月報』／無／Vol. 64, No. 1 (No. 743)／2010／12-27 頁

- (4) 唐 亮「三つの情報競争と情報自由化の流れ」『東亜』(霞山会) / 無 / 5 1 3 号 / 2010 / pp. 4-5
- (5) 唐 亮「公聴会制度から見る政治参加の実態」菱田雅晴編著『中国 基層からのガバナンス』法政大学出版局 / 無 / 2010 / pp. 157-182
- (6) 南 裕子・中岡 まり「構造変動期の党政エリートと地域社会—四川省 SH 県におけるアンケート調査から」『中国 基層からのガバナンス』 / 無 / 2010 / pp. 73-98、法政大学出版局
- (7) 菱田 雅晴「《還暦中国》に“順耳”を希う」『東亜』(霞山会) / 無 / No. 508 / 2009 / pp. 28-34
- (8) 菱田 雅晴「中国：“全球化”の寵児？」鈴木佑司・後藤一美編著『グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス』 / 無 / 現代法研究所叢書 No. 302 / 2009 / pp. 205-230
- (9) 毛里 和子「中国の改革開放 30 年を評価する—制度化の視点から」『ロシア・ユーラシア経済—研究と資料』 / 無 / 第 928 号 / 2009 / 105-117 頁
- (10) 毛里 和子「“動く中国”と“変わらない中国”—現代中国研究のパラダイム・シフトを考える」『アジア研究』(アジア政経学会) / 無 / 第 55 巻第 2 号 / 2009 / pp. 4-11
- (11) 加藤 弘之「中国：改革開放 30 年の回顧と展望」『国民経済雑誌』 / 無 / 第 199 巻第 1 号 / 2009 / pp. 97-114
- (12) 加藤 弘之「改革開放の始まりと終わり—市場移行の視点から—」『現代中国』 / 無 / 第 83 号 / 2009 / pp. 35-50
- (13) 唐 亮「一党支配体制の歴史的使命」深町英夫編著『中国政治体制 100 年』中央大学出版部 / 無 / 2009 / pp. 63-76
- (14) 阿古 智子「溢れる「失業農民」崩れる中国の経済成長モデル」『WEDGE』 / 無 / 6 月号 / 2009 / pp. 18-20
- (15) 阿古 智子「新疆ウイグル暴動の下地にある格差への暴力的な怒り」『エコノミスト』 / 無 / 10 月 12 日号 / 2009 / pp. 68-70
- (16) 阿古 智子「从艾滋病問題看中国的政治社会変動」『社会学評論』(中国・华中科技大学社会学系) / 無 / 第一号 / 2009 / pp. 63-81
- (17) 阿古 智子「水利・土地利用からとらえる中部農村の社会関係資本」『近きに在りて』 / 無 / 55 号 / 2009 / pp. 112-120
- (18) 阿古 智子「“主体”を模索する中国の農村研究者たち」『現代中国研究』 / 無 / 第 25 号 / 2009 / pp. 141-146
- (19) 阿古 智子「日本の制度に関心を寄せる中国の人権派弁護士たち」『東亜』 / 無 / No. 512 / 2009 / pp. 8-9
- (20) 南 裕子・中岡 まり「結構変動期的党政精英与区域社会—基于在四川省 S H 県進行的問卷調査」『社会学評論』(湖北人民出版社) / 有 / 2009 / pp. 82-102
- (21) 中岡 まり「人代選挙制度と和諧社会の建設—北京市(区県級)を例として」『常磐国際紀要』 / 無 / 1 3 / 2009 / pp. 207-214
- (22) 毛里 和子「激流の中にある現代中国にどう迫るか」『論壇 人間と文化』(人間文化研究機構) / 無 / 第 3 号 / 2008 年 11 月 / 102-119 頁
- (23) 毛里 和子「学としての“地域研究”の現状と課題」『北東アジア研究交流ネットワーク 年報』 / 無 / 第 2 号 / 2008 / pp. 6-11
- (24) 毛里 和子「激流の中にある現代中国にどう迫るか」『論壇 人間と文化』(人間文化研究機構) / 無 / 第 3 号 / 2008 / pp. 102-119
- (25) 加藤 弘之「中国の資本主義はどこに向かうか—「新西山会議」をめぐる—」西村成雄・許衛東編『現代中国の社会変容と国際関係』 / 汲古書房 / 無 / 2008 / pp. 13-30
- (26) 高原 明生「現代中国史の再検討—華国鋒と鄧小平、そして 1978 年の画期性について」『東亜』 / 無 / 495 / 2008 / pp. 32-40
- (27) 高原 明生「日中関係における米国要因—日本からの一考察」宇野重昭(編)『転

機に立つ日中関係とアメリカ』／国際書
院／無／2008／pp. 85-108

- (28) 唐 亮「中国政治改革の課題と第2期胡
錦濤政権の取り組み」『東亜』／無／491
／2008／pp. 24-35
- (29) 趙 宏偉「在日本看胡錦濤主席第一任期
的对日外交(2003~2007)」『日本学』(北
京大学日本研究センター、世界知識出版
社)／無／第14巻／2008／pp. 257-270
- (30) 趙 宏偉「改革開放三〇年の中国をどう
みるか—政治局面を中心に—」『研究
誌・季刊中国』／無／NO. 94 秋季号／
2008／pp. 10-21
- (31) 趙 宏偉「中国における政治文明と政治
体制の変容—江沢民政権と胡錦濤政権
の政治過程を考察して」『中国内外政治
と相互依存』(日本評論社)／無／2008
／pp. 87-102
- (32) 加茂 具樹「北京五輪を前に厳しい試
練」『東亜』／無／490／2008／pp. 52-
63
- (33) 加茂 具樹「民主推薦された人代と政協
幹部」『東亜』／無／491／2008／pp. 46
-56
- (34) 加茂 具樹「改革開放 30 周年と「解放
思想」」『東亜』／無／492／2008／pp. 46
-56
- (35) 加茂 具樹「胡錦濤政権と人民—「秩序
ある政治参加」のゆくえ」『Ratio』／無
／5／2008／pp. 98-113

[学会発表] 計 (29) 件

- (1) 毛里 和子／毛沢東時期中国外交論—
—中蘇同盟を事例に／華東師範大学冷
戦史研究センター主催 日中冷戦史
workshop／2010年3月16日／上海
- (2) 阿古 智子／Human Rights Issues of
Migrant Workers in China／The 6th
Annual Workshop for Young Human Rights
Activists The Role of Youth in
Promoting Human Rights in Asia／2010
年2月26日／高麗大学(Korea
University)
- (3) 毛里 和子／地域大国の政治をどう比
較するか?／新学術領域研究「ユーラシ
ア地域大国の比較研究」第2回国際シン

ポジウム／2009年12月12・13日／法政
大学

- (4) 阿古 智子／China's "Floating"
Population and Issues of Human Rights
in a Globalizing Economy／東アジアと
国連：グローバルイシューへの地域協
力を求めて(日本国際連合学会・韓国国
際連合学会)／2009年12月11日／早稲
田大学
- (5) 毛里 和子／新段階の日中関係と東ア
ジア共同体(中国語)／北京外国語大学
日本学センター／2009年11月18日／北
京
- (6) 毛里 和子／新段階の日中関係(中国
語)／上海国際問題研究所／2009年11
月23日／上海
- (7) Masaharu Hishida／Party Building:
Deepening Dusk or Breaking Dawn?／
Beijing Forum 2009／Nov. 7／2009年11
月6-8日／Beijing University
- (8) 阿古 智子／中国のエイズ問題をめぐ
る官民の攻防—都市・農村の断裂を繋ぐ
政治参加の可能性を探る／アジア政経
学会／2009年10月11日／法政大学
- (9) 南 裕子・陸 麗君(華東理工大学副教
授)・中岡 まり／「基層党员と大衆に
おける党の存在—上海市民調査から」／
アジア政経学会 2009 年度全国大会／
2009年10月10日／法政大学
- (10) 中居 良文／New Opportunities and Old
Constraints in Japanese Foreign
Policy／Institute for Taiwan Defense
and Strategic Studies／2009年10月
31日／台北、台湾
- (11) Masaharu Hishida／Social Events as
Sentiment Radiation／Workshop on
Peoples' Resistance／Sept. 1, 2009／
Chinese University of Hong Kong
- (12) 中居 良文／The U. S. -Japan Alliance:
Beyond Northeast Asia／The Brookings
Institution／2009年5月8日／
Washington D. C. USA
- (13) 中居 良文／China and Russia in

Northeast Asia/The East-West center
in Washington D.C./2009年5月7日
/Washington D.C. USA

- (14) 菱田 雅晴/検証；改革・開放の30年
社会領域/人間文化研究機構(NIHU)主
催シンポジウム 検証；改革・開放の
30年/2009年2月10日/早稲田大学中
国研究拠点
- (15) 中岡 まり/「村民委員会・村党支部対
農村経済発展的作用」/中国西部地区貧
困農村問題研究討論会/2008年12月13
日/中国西部地区貧困農村問題研究討
論会
- (16) 加茂 具樹/有秩序的政治參與和胡錦
濤政權的政治改革/日本論壇會議-政權
輪替後台灣與日本的新東亞觀研究討論
/2008年11月28日/台北
- (17) 毛里 和子/為了轉換当代中国研究的
範式(中国語)/南京大学社会学系建系
20周年記念「中国社会与中国研究」(国
際學術研討會での基調講演)/2008
年10月26日/南京大学
- (18) 加茂 具樹/「『国内大局』からみた対
外政策」/日本國際政治学会 2008 年度
全國學術大會 分科會 A4- I/2008 年
10月24日/つくば國際會議場
- (19) 毛里 和子/新段階的中日關係(中国
語)/上海師範大 2008 International
Scholars' Forum(08 學思湖海海外名師
論壇)/2008年10月23日/上海師範大
学
- (20) 加茂 具樹/「1970年代の人民代表大會
改革と改革開放」/現代中国学会第58
回全國學術大會政治分科會/2008年10
月19日/東京大学
- (21) 毛里 和子/East Asia Programme,
I. C. S., Centre for the Study of
Developing Societies, India,
“Sino-Japanese Relations and A New
Regionalism in Asia,”/26 Sept, 2008,
/Delhi
- (22) 加茂 具樹「未來的中国—想像中的中国
與可能實現的中国」/共和國制度成長的
政治的基礎學術討論會/2008年7月18
日/復旦大学(中国・上海)
- (23) Hishida Masaharu/ “A New Trend in CCP

Studies; Organizational Analysis” /
2008 Annual Meeting, Asian Study
Conference, Japan (ASCJ)/2008年6
月21日/ASCJ, 上智大学

- (24) 菱田 雅晴/「日本民間組織問責問題」
/民間組織問責國際會議/2008年4月
26日/中国人民大学非營利組織研究所
- (25) 毛里 和子/現代中国研究のパラダイ
ム轉換のために/現代中国地域研究拠
点プログラム第一回國際シンポジウム
/2008年2月2日/早稲田大学
- (26) 毛里 和子/新段階的中日關係(中国
語)/天津・南開大学での講演/2007
年9月24日/南開大学
- (27) 毛里 和子/新中日關係与新東亞合作
/北京大学國際關係學院での講演/
2007年9月22日(中国語)/北京大学
- (28) 毛里 和子/正常化35周年の日中關係
を考える/日本經濟研究センター・シン
ポジウム/2007年6月12日/日本經濟
研究センター
- (29) 毛里 和子/從整体結構來理解 新階段
的中日關係-兼述早稲田大学的重州研究
概況(中国語)/中国・清華大学での講
演/2007年3月20日/清華大学

[図書] 計(8)件

- (1) 菱田 雅晴(編著)『中国；基層からの
ガバナンス』法政大学出版社/2010/
324頁
- (2) Masaharu Hishida『China's Trade
Unions; How Autonomous Are They?』
Routledge/2009/263 pages
- (3) 毛里 和子・川島 真『グローバル大国
への道程』(中国・問題群叢書12)岩波
書店/2009/212頁
- (4) 毛里 和子『中日關係—從戰後走向新時
代』(徐頭芬訳)社会科学文献出版社、
2009年、237頁
- (5) 加藤 弘之・久保 亨『進化する中国の
資本主義』/岩波書店/2009/250頁
- (6) 黒田 由彦・南 裕子『中国における住
民組織の再編と自治への模索—地域自
治の存立基盤』(日中社会学叢書6)/明
石書店/2009/280頁

(7) 阿古 智子『貧者を喰らう国－中国格差社会からの警告－』新潮社／2009／204頁

(8) Kazuko Mori and Kenichiro Hirano, A New East Asia-Toward a Regional Community, National University of Singapore Press, 2007, 238 pages

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菱田 雅晴 (HISHIDA MASAHARU)
法政大学・法学部・教授
研究者番号：00199001

(2) 研究分担者

毛里 和子 (MORI KAZUKO)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号：40200323

天児 慧 (AMAKO SATOSHI)
早稲田大学・アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：70150555

加藤 弘之 (KATO HIROYUKI)
神戸大学・経済学研究科・教授
研究者番号：70152741

唐 亮 (TANG LIANG)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号：10257743

高原 明生 (TAKAHARA AKIO)
東京大学・法学研究科・教授
研究者番号：80240993

小嶋 華津子 (KOJIMA KAZUKO)
筑波大学・人文社会研究科・専任講師
研究者番号：00344854

朱 建榮 (ZHU JIANRONG)
東洋学園大学・人文学部・教授
研究者番号：30248950

趙 宏偉 (ZHAO HONGWEI)
法政大学・キャリアデザイン学部・教授
研究者番号：40265773

諏訪 一幸 (SUWA KAZUYUKI)
静岡県立大学・国際関係学部・教授
研究者番号：50374632

阿古 智子 (AKO TOMOKO)

早稲田大学・国際教養学術院・准教授
研究者番号：80388842

南 裕子 (MINAMI YUKO)
一橋大学・経済学研究科・准教授
研究者番号：40377057

中岡 まり (NAKAOKA MARI)
常磐大学・国際学部・専任講師
研究者番号：80364488

加茂 具樹 (KAMO TOMOKI)
慶應義塾大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：30365499

中居 良文 (NAKAI YOSHIFUMI)
学習院大学・法学部・教授
研究者番号：80365072

(3) 研究協力者

呉 茂松 (WU MAOSONG)
慶応義塾大学・法学研究科・助教

白 智立 (BAI ZHILI)
北京大学・行政管理学院・副院長、副教授

鄭 永年 (ZHENG YONGNIAN)
国立シンガポール大学・東アジア研究所・所長、教授

景 躍進 (JING YUEJIN)
中国人民大学・社会学系・教授

趙 秀梅 (ZHAO XIUMEI)
河北経済貿易大学・公共管理学院・副教授